

熊本日日新聞社



地域での日常業務 及び 見守りの内容

- 新聞と電子版商品の販売及び普及促進。自治体広報などデリバリー業務や食品、飲料、防災グッズなどの物販事業
- 朝刊配達（早朝）、すばいす配達（日中）業務に従事しながらの見守り
- 一部の販売センターでは、登録制の見守りサービスを実施

異変を察知した事例（令和6年度）

- 認知症の疑いがある女性を保護（5月3日、御船町）椅子に高齢の女性が座っていたので声を掛けるところ「家が分からなくなった」との返事。御船警察署まで同行。署員に引き渡したのち無事自宅が判明し高齢女性は帰宅。
- 自宅にて脱水症状で意識が薄れている一人暮らしの高齢者を発見し保護（7月26日、熊本市） 集金先の購読者宅で応答がない状況に異変を感じ、すぐに警察と消防に通報。
- ガードレールに衝突した車を発見、意識不明の男性を保護（7月29日、西原村）朝刊配達中にガードレールに衝突した車両を発見。意識不明の男性を確認し、警察と消防に通報した。意識が戻らない男性に声をかけ続け救護活動を支援。
- 庭先で倒れている男性を発見（9月16日、玉名市）男性が庭先で倒れて、助けを求めているのを発見。119番に通報し救急隊につないだ。
- 集金先の読者宅で倒れていた女性を発見（9月25日、長洲町）80代の一人暮らしの女性方で、新聞がポストに残っていたことから異変を察知。室内に女性が倒れているのを発見し、区長と民生委員を呼んで救急隊に引き継いだ。

ミニコミ紙200号 防犯活動に感謝状

玉名署、熊日販売センターに

玉名署管内の熊日販売センター10店が発行するミニコミ紙「熊日玉名はっとネットワーク」が200号を超えた。署や玉名市内の高校と協力し、高校生の活動や防犯に関する情報を17年にわたって掲載。署は地域の安全に貢献したとして販売センターに感謝状を贈った。

はっとネットワークは2007年8月から、熊日朝刊に月1回折り込む「熊日ホームメロ」の裏に印刷。学校行事や、生徒による防犯活動などを紹介する。玉名警察署コーナーでは交通安全や振り込み詐欺防止などを呼びかけている。今年4月に200号を迎えた。

玉名署で6月28日に行った学校等警察連絡協議会の全体会で、高橋太署長が販売センターでつくる玉名店主会の吉田隆理事と村上修司副理事に感謝状を手渡した。吉田理事は「これからも防犯に役立つ情報を届けたい」と話している。（伴哲司）



社内での研修又は周知状況

- 事例発生後には社内ニュースで紹介し、全従業員に共有している。対象スタッフの表彰も行っている。事例は各販売センターで掲示するなど周知を図っている。
- 業務開始時の小まめな声掛けで見守りや安全配慮の意識付けをおこなっている。

今後の見守り活動に向けて

- 今後も県内各地全114の販売センターを拠点に、高齢者をはじめ子供たち地域の皆さまが安心して生活できる地域づくりをお手伝いします。
- 販売センタースタッフの認知症サポーター養成や救急講習受講またはそのフォローアップを検討します。



「熊日玉名はっとネットワーク」下益城」の吉富浩一代表
30日、熊本市中央区

◆熊本県防犯協会連合会の防犯功労者表彰
熊本県防犯協会連合会の防犯功労者表彰が30日、熊本市中央区の熊本テルサであり、上益城、下益城の六つの熊日販売センターでつくる「熊日玉名はっとネットワーク」など10団体と33個人の功績をたたえた。同ネットワークは、青パトによる登下校時の見守りや、小学生や高齢者向けの防犯チラシ作りなど、地域の安全活動に貢献してきた。吉富浩一代表（65）は「地道に地域の見守りに協力していきたい」と話した。